

a 学校教育目標	学びあい、思いあい、高めあいのできる児童の育成「三愛」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)友達と学びあい、思いあい、高めあう児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)行きたい 行かせたい 行かせてよかった学校
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	確かな学力を身に付けた児童の育成	◎主体的・対話的で深い学びの実現により確かな学力を育成する。 ○UDLの視点を取り入れた授業改善 ・学習者の視点で学びの障害を取り除く ・多様な選択肢と自己決定の場の提供 ・自分にあった学び方で学習し、自ら学ぶ「学びのエキスパート」の育成	①単元末テストの「知識・技能」において、85%以上の児童の割合 ②単元末テストの「思考・判断・表現」において、70%以上の児童の割合 ③「UDLの視点を取り入れた授業改善を意識することができた」と回答している教師の割合 「自ら進んで学習に取り組むことができています」と回答している児童の割合	①80% ②80% ③どちらも90%	①57.0% ②67.1% ③教師87.5% 児童87.7%	①71% ②83.8% ③教師97.2% 児童97.4%	①C ②B ③B	①目標を達成できなかった。(57.0%) 昨年度まで実態をもとに、評価指標85%以上の児童の割合と設定したが、達成できていない児童の把握と手立てを共有し、学年での実施および振り返りが不十分であった。 ②目標を達成することができなかった。(83.8%) 単元末テストの「思考・判断・表現」において、課題は大きい。事前に単元でどんな力を付けることが必要かを学年ブロックで意見交流し、指導に生かす取組を増やしていくことが必要。また、児童のつまずきの分析が十分でなく、日々の取り組みや学習補充の在り方を見直していくことも必要。 ③目標を達成することができた。(教師97.2%、児童97.4%) 4月からの校内研修の内容を工夫した。→UDLについての理論研修や講師を招聘しての講話、実践交流などを行ったことで、教師の意識は向上している。児童の意識として「自ら進んで学習に取り組んでいる」と肯定的回答は高いが、教師の見取りとはずれがあるので、どんな姿があったときかを共有し、授業改善につなげることが必要。	①自ら進んで学習する児童を育成することを意識した授業改善に努める。UDLの視点を取り入れることや学力の一層の定着を図るためにも、実際の具体的な取組を示したり、交流したりしていく。→授業で練習問題に取り組む時間を保障するとともに、チャレンジタイムの見直しと一層の充実も図っていく。また、低学年の学力定着を図ることに力を入れていく必要がある。 ②「思考・判断・表現」の力を育成する具体的な手立て(思考させるための問いや表現の場の設定など)が必要。教師主体でなく、子供たち全員が参加する授業を目指し、NRTや全国学力調査等で明らかにした学年や学級の課題に応じて今後の対策を共有・実施し振り返りと見直し。 ③現段階での課題や先生方のアンケート回答をもとに、校内で実施する研修内容をより焦点化していく。また、目指す児童の姿を教職員だけでなく、子供たちも共有。→児童が主体的に学ぶことができていく際には教師が肯定的に価値付けを行い、児童の意識向上にも努める。	○			単元末テストの通過率が低く、学力の定着が十分でないことは見えるのですが、その分布傾向(分布が全体的に右寄りなのか、二極傾向にあるのか、等)や要因把握に客観性が薄く、文面だけでは改善方針に繋がりにくいと感じました。 通過率だけではなく、学びの状態を把握する多様な評価方法を取り入れるなどの検討をよろしく願います。 算数の授業で児童の理解度によって教室で見え方を変えているのを拝見しました。すべての児童が学力を向上できるように引き続きよろしく願います。	
豊かな心の育成	潤いと落ち着きのある児童の育成	◎目標達成のため、自ら挑戦し、仲間とともに粘り強くやりぬく力を育成する ②「気持ちの良い学校」づくり ・児童会活動とリンクさせた生活目標の設定 ・「あいさつ」と「掃除」による明るくきれいな学校づくり	①学校行事・児童会行事において、目標達成のために手立てを設定し、頑張りを認める場の設定(月1回以上) ②「あいさつ」「掃除」の振り返りで肯定的評価をした児童・教師・保護者の割合	①90% ②90%	①100% ②「挨拶」児童88.7% 教師38.9% 保護者64.3% 「掃除」児童90% 教師72%	①111% ②「挨拶」児童99% 教師43% 保護者71% 「掃除」児童100% 教師80%	①A ②「掃除」児童A 教師B	①目標を達成することができた。 児童会を中心に、あいさつや感謝・協力の月目標を立て、学級・学年ごとに取組を行った。それぞれの結果をクラスごとに集計し、目標値を達成できたクラスを発表することで頑張りを認めることができた。しかし、クラスの実態により、取組や児童それぞれの意識の差があり、児童の姿の差を十分に実感することができなかった学級もある。縦割り班活動を実施し、頑張りを認め合うことを通して、児童の自己有用感を高めることができた。 ②あいさつにかかわっては目標を達成することができなかった。児童会を中心に取組期間を設定し、児童の意識付けを行ったが、習慣づけることができなかった。 掃除にかかわっては、肯定的に評価している児童が多い。一方で、児童の様子に対して満足していない教師が多く、今後も継続して指導をしたり、手立てを考えたりしていく必要がある。また、めざす姿が共有できていないため、児童と教師での結果のずれが生まれている。	①縦割り班活動や行事等の特別活動の時間をさらに充実させることで、高学年を中心とした集団づくりを目指していく。また、学級の実態や発達段階に応じた頑張りを評価する場を設定することで、児童の自己肯定感や自己有用感を高めて、さらに肯定的評価ができる児童を増やしていく。 ②あいさつについては引き続き指導が必要である。あいさつの意味を考えさせる道徳科の授業や教師からの声かけを充実させていく。また、掃除に関しては縦割り班での無言掃除を意識して取り組むようにしていく。反省の際には頑張っていた児童を評価する場を設定することで、児童の掃除への意欲を高めていく。教師と児童の意識の差があるので、肯定的な声かけを全職員で行っていくことで、子供たちと教職員が同じゴールを目指していけるようにする。	○			今年度から、「保護者」の評価を加えているので、改善方針でも、保護者・地域を含めた取組へと繋ぐことが、重点目標の取組となるのではと思います。 挨拶・掃除とともに、中間評価で目標達成できなかったとしても、児童会を中心とした重点取組期間の設定を継続することが、意識付けには効果的だと思います。 児童と教師の評価に開きがあります。掃除・挨拶は学校生活の基本だと思いますので、引き続き指導をよろしく願います。	
健やかな体の育成	生涯にわたり心身ともに健康で安全な生活を送るための基礎的実践力の育成	○自分の健康に関心を持ち、健康課題を自ら解決していこうとする態度を育成する ②計画的・意図的な食育指導・給食指導の実施	①運動やスポーツが好きな児童の割合 ②感謝して残さず食べようとする児童の割合	①95% ②90%	①84.9% ②91.2%	①89.3% ②101.3%	①B ②A	①目標を達成することができなかった。 児童アンケートや体力テスト(5年児童)の結果から、体を動かす事が好きな児童は多いが、運動に苦手意識がある児童もいることが分かった。感染症対策や熱中症対策により体を動かす経験が減少していたことで、意欲や筋力などが低下しているのではないかと分析する。 ②目標を達成することができた。 毎月19日の食育の日の全校指導や各学年の栄養教諭との連携授業を通して、食べることへの感謝の気持ちを高めている児童が多い。また、栽培活動を通して苦手な野菜を食べようとすることができた児童もいた。	①夏季休業中の職員研修を生かして、アクティブチャイルドプログラムを計画的に準備運動に取り入れ、楽しく運動できるようにさせる。また、体育朝会やマラソン大会、縦割り班遊びなどを企画し、運動量の確保と自分の目標を選択させて達成感を味わえる活動を行っていく。 ②引き続き食育の日や栄養教諭との連携授業を行い、感謝して食べようとする意識を高めさせたい。また、全国学校給食週間(1月)に合わせて、各学年で取り組んだ食育についてポスターで交流できるようにし、保護者にも学校での食育について連携できるようにしていく。	○			目標達成はできていたのですが、「感謝して食べる」の割合が昨年度より低下しています。評価項目・指標との関係かもしれませんが、もう少し記述があればわかりやすいと思いました。 コロナ禍もあり、運動・スポーツを敬遠した家庭もあると思いますが学校でのイベント等を増やすことで体を動かす機会が増えたら、と考えます。	
信頼される学校	保護者・地域とともに歩む学校の推進	○不祥事防止の徹底 ○地域とともにある学校の創造 ○教職員が健康でやりがいをもって勤務できる環境づくり	①自己との関わりで意識向上を図る研修の実施 ②保護者、地域、関係機関との連携 ・コミュニティスクールの推進 ③積極的な働き方改革への意識の向上 ・定時退校日の実施(毎週水曜日) ③時間外勤務45時間以下の月が6ヶ月以上の教職員の割合	①100% ②100% ③100%	①100% ②100% ③96%	①100% ②100% ③96%	①A ②A ③B	①目標を達成できた。(100%) 不祥事防止研修の担当を学年で分担し行うことで、不祥事に対する意識向上につながっている。研修にロールプレイや意見交流を取り入れ自分事として捉えられるようにしている。 ②目標を達成できた。(100%) 学校林に関わっては、計画的に進めることができるように、年度初めに、フォレストサポートの方と年間計画を話し合った。また、4年生以上は、水泳学習を地域の方に指導していただいた。また、体育参観日のやさしに向けて、やさし振興協議会の方の指導を受けた。 ③時間外の在校時間が45時間以下の月が半分に満たない教職員は1名のみであった。(4~8月) 昨年のこの時期に比べ、時間外勤務が月45時間以上の職員が大変少なくなった(昨年は66%)。学校全体の取り組みは、次の通り⇒チャレンジタイムを朝の時間に移動し下校時刻を早め、放課後の時間確保。成績処理週間の設置(5・6時間目カットの日を数日間設置。成績処理に係るスケジュールの提示。)。1週間の仕事の見直しをもつための学年会の実施。定時退校日を完全実施するための工夫。	①研修を計画的に実施する。不祥事防止委員会など各種委員会においてヒヤリハット事案を出し合い、未然防止に努める。 ②学校林に関わり、フォレストサポートを活用した取組、学校林以外にも、老人会、コミセン、消防団、スーパーなどを活用した取組を計画。実施に向け、事前に地域の方々々と密に連携を取り、目標やねらいを共有してより効果的に実施。 ③職員一人一人の意識改革を行いながら、業務改善をさらに進める。成績処理について、見直しをもち、計画的にできるように、3学期末までのスケジュールを細かく提示しているため、適宜声かけをしていく。会議などの持ち方を検討。	○			改善方針に示されているとおり、地域の人材を活用した教育活動については、「学校を核とした地域づくり」という視点から、地域の幅広い団体の参画や協働活動を進めていきたい。 コミュニティスクールの実施に伴い地域のの方々のお手伝い、援助が必要となってきますがあまり知れ渡っていないのが現状だと思います。PTAも含めて周知や募集ができたらと思います。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。